

近畿支部管内における都市ガス事故の発生状況（2023年） 1 / 5

※速報値のため、変更等があり得ます。

①ガス事故報告件数 事業別（過去10年間）

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
一般ガス導管 事業関連	130	155	139	111	103	143	107	119	128	64
旧簡易ガス 事業関連	4	5	3	1	4	3	2	2	1	2
合計	134	160	142	112	107	146	109	121	129	66

2023年に発生した近畿管内におけるガス関係報告規則第4条第1項に該当する 詳報対象事故の発生件数は、66件（前年より63件減少）となった。

減少の理由は、2023年3月31日付けでガス事故報告の運用が変更※になったことに伴うもの。

※「交通渋滞、公共交通機関の運行支障又は付近住民の往来困難等を招来したもの」を「高速道路・国道・都道府県道において、片側若しくは両側通行規制を来した場合又は電車・バス等公共交通機関について、運行停止若しくは大幅な遅延を来したもの」に変更。

②ガス事故報告件数 段階別（過去3年間）

	2021年	2022年	2023年
製造段階	1(1)	0	1
供給段階	90(1)	102(1)	43(2)
死傷事故件数	1	0	0
消費段階	30	27	22
死傷事故件数	0	1	1
合計事故件数	121(2)	129(1)	66(2)

・2023年は死傷事故が「消費段階」で1件発生。
漏えいしたガスへの着火により1名が負傷したものの。

※（）内は旧簡易ガス事業関連の数字で内数

近畿支部管内における都市ガス事故の発生状況（2023年） 2 / 5

※速報値のため、変更等があり得ます。

③供給段階における現象別件数（過去3年間）

	2021年	2022年	2023年
供給支障	11(1)	9(1)	3(1)
着火・爆発・中毒等	7	2	0
避難・交通困難	72	90	40(1)
合計事故件数	90(1)	101(1)	43(2)

※（）内は旧簡易ガス事業関連の数字で内数

※現象については重複があるため、合計とは一致しない

- ・「避難・交通困難」を伴う事故が40件発生しており、現象として最も多く発生している。
- ・「供給支障」の3件の内訳は、サンドブラストが1件、付近ガス工事に伴い周辺のガス圧力が一時的に低下したと推定されるものが1件、自然劣化に伴うガス漏えい（簡易ガス）が1件となっている。

④供給段階における要因別件数（過去3年間）

	2021年	2022年	2023年
他工事	35(1)	39(1)	15
導管工事	3	2	0
自然劣化	31	27	14(1)
継手部緩み		8	7(1)
物理的外力	1	2	1
その他	20	23	6
合計事故件数	90(1)	101(1)	43(2)

※（）内は旧簡易ガス事業関連の数字で内数

- ・「他工事」による事故が15件となっている。
- ・「自然劣化」による事故が14件、「継手部緩み」による事故が7件発生した。
- ・「その他」は車両飛込みやサンドブラスト等。

（参考）管種別の自然劣化による事故（過去3年間）

	2021年	2022年	2023年	合計
ねずみ鋳鉄管	0	0	0	0
アスファルトジャケット巻き鋼管	17	11	4	32
亜鉛メッキ鋼管	1	6	2	9
ポリエチレン被覆鋼管	8	6	5	19
その他	5	3	2	10
不明	0	1	1	2
合計	31	27	14	72

近畿支部管内における都市ガス事故の発生状況（2023年） 3 / 5

※速報値のため、変更等があり得ます。

⑤現象別他工事による事故 （過去3年間）

	2021年	2022年	2023年
供給支障	2(1)	1(1)	0
中毒・酸欠	0	0	0
着火・爆発	3	0	0
避難・交通困難	30	38	15
他工事事故の合計	35(1)	39(1)	15
事前照会あり	11	15(1)	8
事前照会なし	23	24	7

※（）内は旧簡易ガス事業関連の数字で内数

※現象については重複があるため、合計とは一致しない

- ・他工事事故のうち、半数は事前照会が無かったものである。また、13件が敷地内において発生している。
- ・事前照会があったにもかかわらず事故に至ったものは8件あり、要因としては「事前照会時と異なった作業を連絡せずに実施した」ものや、「他工事業者内で現場作業員への連絡不備」等となっている。

⑥工事業者別の他工事による事故 （過去3年間）

	2021年	2022年	2023年	合計
解体工事業者	9	12	8	29
建築工事業者	7	11	2	20
水道工事業者	1	5(1)	2	8(1)
下水道工事業者	6	1	0	7
道路工事業者	3	2	1	6
外構工事業者	1	1	0	2
改装工事業者	1	1	0	2
電気工事業者	0	1	0	1
基礎工事業者	0	0	0	0
設備工事業者	0	0	0	0
電柱工事業者	2(1)	0	0	2(1)
土質調査業者	1	0	2	3
その他	4	5	0	9
合計	35(1)	39(1)	15	89(2)

※（）内は旧簡易ガス事業関連の数字で内数

- ・他工事事故は、解体工事業者、建築工事業者、水道・下水道事業者の順で多く発生している。

近畿支部管内における都市ガス事故の発生状況（2023年） 4 / 5

⑦消費段階における要因別件数（過去3年間）

※速報値のため、変更等があり得ます。

		2021年	2022年	2023年	合計
発生件数		30	27	22	79
消費者の理解不足や誤使用等に起因する事故		21	16	17	54
維持管理不備		15	6	6	27
	経年劣化	4	3	2	9
	内部腐食	2	0	1	3
	汚れ等	8	3	3	14
	その他	1	0	0	1
	ガス栓誤開放	1	4	1	6
	接続不良・接続不完全	4	3	5	12
不適切使用（点火操作ミス・使用ミス）	1	3	5	9	
CO中毒		0	0	0	0
その他		9	11	7	27
作業ミス		1	0	1	2
	養生シート覆い等、給排気閉塞	6	7	3	16
	リコール等	1	1	1	3
	その他	0	1	0	1
	不明（調査中を含む）	1	2	2	5

※複数の要因によるものがあるため、事故の発生件数と要因別合計は一致しない。

- 消費機器事故は年間30件前後で推移していたが、令和5年は22件に減少した。
- 負傷事故は令和4年に1件(死亡2名、軽症1名)、令和5年に1件(軽症1名)発生している。
- 事故原因は消費者に起因するものが多く、各消費機器ともに（特にコンロと迅速継ぎ手）長期間使用に伴う内部の汚れや異物の付着による劣化や腐食、接続具の差し込み不足や消費機器更新時の劣化した接続具の再使用による接続不良などにより発生している。

※速報値のため、変更等があり得ます。

⑧消費段階の消費機器別件数（過去3年間）

	2021年	2022年	2023年	合計
風呂釜	3	2	0	5
湯沸器	9	9	5	23
ガス栓	1	4	2	7
炊飯器	0	0	0	0
コンロ	3	1	5(1)	9(1)
クッキング テーブル	1	1	2	4
ファンヒーター	0	0	0	0
接続具	12(3)	8(4)	9(4)	29(11)
その他	1	2	0	3
合計	30(3)	27(4)	23(5)	80(12)

※（ ）は、産業用に用いられていたものであり、件数は内数。

※複数の要因によるものがあるため、事故の発生件数と要因別合計は一致しない。

- ・発生件数の多い消費機器は、湯沸器と接続具となっている。
- ・接続具の事故のうち9件（31%）が、開放式瞬間湯沸器取付時の金属接続具の締め込み不足や既設接続具（劣化パッキン）の再使用により発生している。
- ・湯沸器の事故は、約7割(16件)が養生シート等による給排気閉塞によって発生している。機器の不具合によるものについては、内部腐食が2件。2005年製造のRF式給湯器の排気ファンの劣化が2件、レンジフード型給湯器のガス元電磁弁の故障が1件となっている。その他、不完全燃焼防止装置付き瞬間湯沸器の繰り返し着火による事故が1件発生している。
- ・コンロの事故は、殆どが煮こぼれによる腐食や煮こぼれによる器具栓内部のOリングの摩耗により発生している。
- ・ガス栓の事故は、殆どが2口ガス栓の未使用ガス栓の誤開放によるものである。